

拠点名称：「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点

代表機関	東京藝術大学	プロジェクトリーダー	伊藤 達矢 東京藝術大学 社会連携センター 特任准教授
参画機関	(大学等) 東海国立大学機構、横浜市立大学、慶應義塾大学、国立精神・神経医療研究センター (企業等) 株式会社インビジ、大日本印刷株式会社、SOMPOホールディングス株式会社、ヤマハ株式会社、 社会福祉法人台東区社会福祉協議会、独立行政法人国立美術館、公益財団法人東京都歴史文化財団東京都美術館		

プロジェクトの概要

「芸術とテクノロジーの融合による誰もが孤立しない共生社会」の実現を目指す。

日本が直面している課題の一つに、超高齢化に伴う障害と、望まない孤独・孤立がある。65歳以上の割合が30%を超える2030年以降の社会で、高齢者が社会参加しにくく、生きがいや創造性を実感できなくなることは、個人の健康のみならず、経済的観点からも社会への大きな打撃となる。

よって本拠点では、あるべき未来の社会像として、個々人の尊厳が認められ、誰もが生涯を通して社会に参加でき、生きがいと創造性を持って生活できる共生社会の実現をビジョンに掲げ、多様な人々が結びつく現代社会にあった新しいコミュニティの形を「芸術×テクノロジー」で提案する。

個人の生きがいや尊厳に直結し、人が人として生きるための体験「文化的処方」(社会的処方を用)を開発し、社会参加の機会となる「文化施設」の利活用を促進させるテクノロジーの開発・導入を進める他、誰もが孤独しないアートを介したコミュニケーションを持続的に運営、普及させるための社会環境(これらを含めて「共生社会PLANET」と呼ぶ)の構築にかかる研究と実践を行う。

